

勸 告	説明図表番号
<p><b>エ ライフサイクルコスト比較の実施状況</b></p> <p>長寿命化手引きにおいて、ストックマネジメントとは、廃棄物処理施設に求められる性能水準を保ちつつ長寿命化を図り、ライフサイクルコスト（以下「LCC」という。）を低減するための技術体系及び管理手法の総称とされており、環境省は、一定期間内の廃棄物処理のLCCを低減できるかについて、「延命化を行う場合」と、延命化対策を実施しないで「施設更新する場合」との比較、評価を行い、延命化の効果を明らかにすることとしている。</p> <p>今回、調査対象 77 施設のうち、延命化計画の中でLCC比較を実施している 24 施設について、その実施状況をみると、以下のとおり、コストの算定が不十分な例がみられた。</p> <p>i) 現行施設の建設費が粗大ごみ処理施設を含めて約 114 億円であったことを基に、施設更新する場合の建設費を現在価値割引前で 126 億円としているが、差額の 12 億円の根拠が不明確であり、また、ごみ処理量の減少（平成 17 年度 40,962t/年に対し、22 年度 34,043t/年）に応じた施設の処理能力の見積りを行っていないもの</p> <p>ii) 1 炉のみで稼働を開始し、3 年後に 2 炉での稼働を開始した施設について、延命化工事後の点検補修費の算定に当たり、長寿命化手引きに沿って、過去の点検補修費の実績を基に算定しているものの、2 炉構成での延命化を前提としているにもかかわらず、1 炉のみで稼働していた 3 年間の点検補修費の実績をそのまま用いているもの</p> <p>これらについては、施設更新を行う場合の建設費や点検補修費の算定に当たり留意すべき事項等を明示することにより、今後、LCC比較を行う市町村等において、同様の事例の発生を抑えることができると考えられる。</p> <p>一方、環境省は、LCC比較について、延命化計画の一部に位置付け、基幹的設備改良事業の交付要件として延命化計画の策定を求めているものの、LCC比較の実施状況の把握までは行うこととしていない。</p> <p><b>【所見】</b></p> <p>したがって、環境省は、市町村等における適切なLCC比較を促進する観点から、都道府県を通じる等により、市町村等におけるLCC比較の実施状況を把握した上で、市町村等に対し、適切な比較の実施に資する情報を提供する必要がある。</p>	<p>表 2- (1) -エ</p>

表 2- (1) - エ L C C の算定が不十分な例

【愛知県稲沢市】

施設更新する場合の建設費について、現行施設の建設費が粗大ごみ処理施設を含めて約 114 億円であったことを基に、現在価値の割引前の費用で 126 億円としているものの、差額の 12 億円の根拠が不明となっている。

また、施設更新を行う場合の建設費を算定する際、ごみ処理量の減少（平成 17 年度が 40,962t/年に対し、22 年度が 34,043t/年）に応じた施設の処理能力の見積りを行っていないこと、近年整備された他の施設の建設費の動向を踏まえず高額な単価を用いて算定していることにより、建設費が過大となっている。

【埼玉県川口市】

1 炉のみで稼働を開始し、3 年後に 2 炉での稼働を開始した施設について、延命化工事後の点検補修費の算定に当たり、長寿命化手引きに沿って、過去の点検補修費の実績を基に算定しているものの、2 炉構成での延命化を前提としているにもかかわらず、1 炉運転か 2 炉運転かを考慮せず、1 炉のみで稼働していた 3 年間の点検補修費の実績をそのまま用いている。

複数炉を有する施設については、1 炉稼働の場合と複数炉稼働の場合の点検補修費の算定方法が異なるが、長寿命化手引きにおいて、当該算定方法の違いが明示されていないことから、同市において適切な算定方法が用いられていない。

(注) 当省の調査結果による。